

## 第22回夏季大学受講者アンケートより

今年度の夏季大学は、「環境としての大気」というテーマで1988年7月26日～29日、東京・気象庁講堂で開講された。受講者は、80名でその半数以上が初参加だったが、19回参加という熱心なベテランもいた。

講義テーマ及び講師は次のとおりである。

- (1) 大気の起源と進化 松井孝典(東京大学)
- (2) 気候とその変動のシミュレーション 鬼頭昭雄(気象研究所)
- (3) オゾン層と微量成分 牧野行雄(気象研究所)
- (4) 天気図のはなし 永沢義嗣(気象研究所)
- (5) 天気図実習 永沢義嗣(気象研究所)
- (6) 汚染質の中・長距離輸送 木村富士男(気象研究所)

終了時受講者に実施したアンケートの集約結果の一部を紹介する。具体的な意見、要望も数多く記入されていたがここでは割愛する。集約結果については今後の運営に反映させていきたい。

アンケート集約結果 回収率85% (68名)

### 1. 職業等

- ①教職員 26名(高校16, 中学校5, 大学1, 小学校1)
- ②学生 25名(大学生16, 高校生3)
- ③その他 15名(地方公務員4, 航空会社気象業務, 主婦, 元天文台職員, 民間研究所員, 情報処理

技術者など)

### 2. 年齢

- ①15～19歳 4名 ②20～29歳 33名 ③30～39歳 15名
- ④40～49歳 9名 ⑤50～59歳 5名 ⑥60～69歳 2名

### 3. 受講の目的

- ①教養・趣味 45名 ②教材研究 15名 ③業務上の参考 7名

### 4. 参加回数

- ①初回 45名 ②2回目 12名 ③3回目 2名
- ④4回目 3名 ⑤6回以上 5名(最多19回)

### 5. 開講を何で知ったか

- ①「気象」 27名 ②「天気」 19名 ③新聞(朝日) 7名
- ④知人・学校 7名 ⑤NHKテレビ 2名

### 6. 日本気象学会員かどうか

- ①会員 25名 ②非会員 43名

### 7. 受講料(一般6,000円, 教員5,000円, 気象学会員・日本地学教育学会員・学生4,500円)

- ①高い 5名 ②適当 60名 ③安い 3名
- (教育と普及委員会)

編集後記：会員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年も、是非多くの方から、天気に対する要望・希望を寄せていただき、天気が会員の良きパートナーとして、なお一層成長できるよう努力していききたいと思います。

12月の編集会議でも、会員の希望として“パソコンに関するソフト情報等を天気に“ということが話題になりました。実際、気象庁におけるパソコンの導入は、ここ

数年目を見張るものがあります。また会員の中にも、個人でパソコンを持っておられる方は相当多いと思います。小生の初夢の希望ですが、さまざまなレベルで利用されている、これらのパソコンが全国規模で自由におしゃべりできるようになれば素晴らしいと思います。(追・残念ながら小生は、諸般の事情によりいまだ、パソコンを購入しておりません。T.C.)